

独立行政法人北海道土木研究所道路部
2004年9月21日(水)

感性工学からの道づくり:社会的合意形成プロセス

桑子敏雄

東京工業大学社会理工学研究科

東京都目黒区大田山2-12-1東京工業大学道9 号館E905
Tel.&Fax:03-5724-3256
E-mail:kawakao@vtdes.itech.ac.jp

- 1. 紛争と再生の風景

感性工学からの道づくり:社会的合意形成プロセス

目次

- 1. 紛争と再生の風景
- 2. 市民参加と合意形成
- 3. 木津川上流住民対話集会での実践的合意形成プロセスの構築



東京外環(PIの実験的实施)



国立マンション訴訟
(企業利益か、景観保護か)

欠落の風景



河川管理者「一刻も早く治水を」
観光協会関係者「ふるさとの川をこんな
に化粧にしてしまった。しかも化粧が
れと来た」

生き物の視線
生き物への視線の
欠落した
風景

北海道留萌川「親水護岸」の空間



沙流川二風谷

「川には住んでもないやならぬ」

欠落の風景



身近な価値
への「まなざ
し」の欠如

農業者「農業振興のために淡水化を」
漁業者「漁業資源保護のために汽水保護を」
住民「この原らるる縄文が邪魔」
「あたりまえの風景」

鳥取県鳥取市湖山池

欠落の風景



連携の欠如

農家「減反、後継者不在で田んぼ、
ため池の維持は困難」
非農家「良好な自然環境を残したい」
行政「公共的に管理する方法がない」

香川県牟礼町ため池の危機

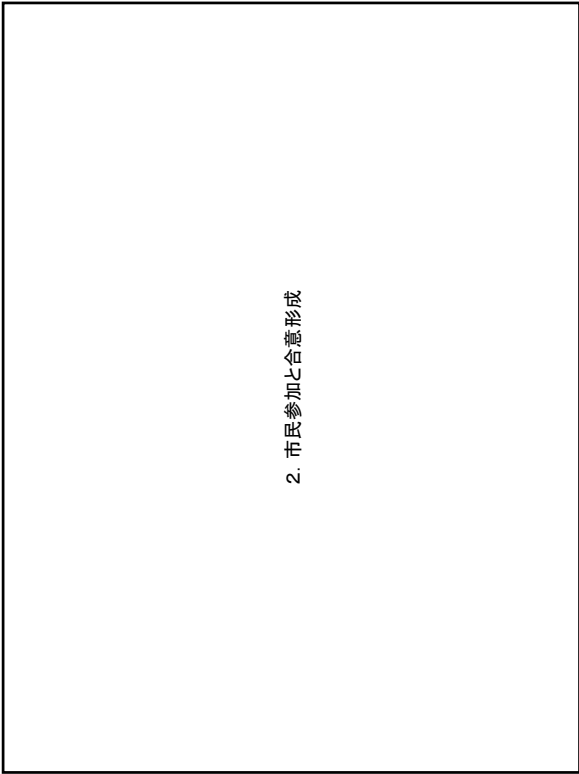
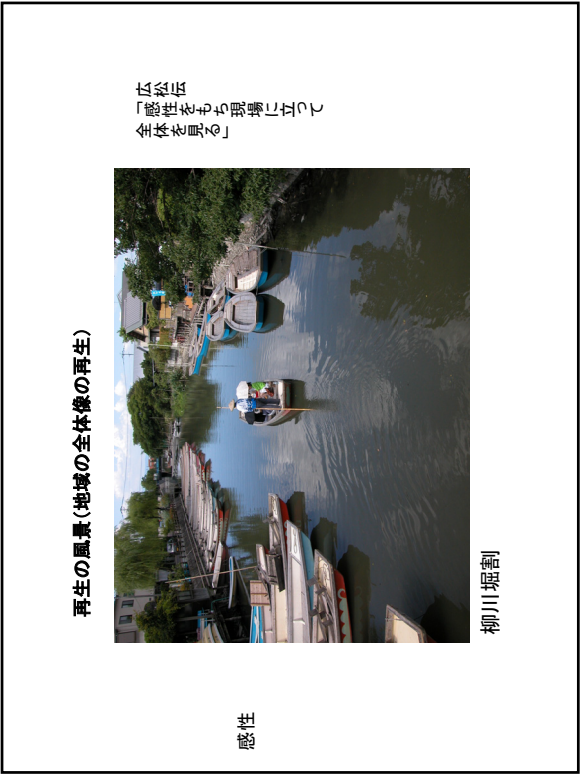
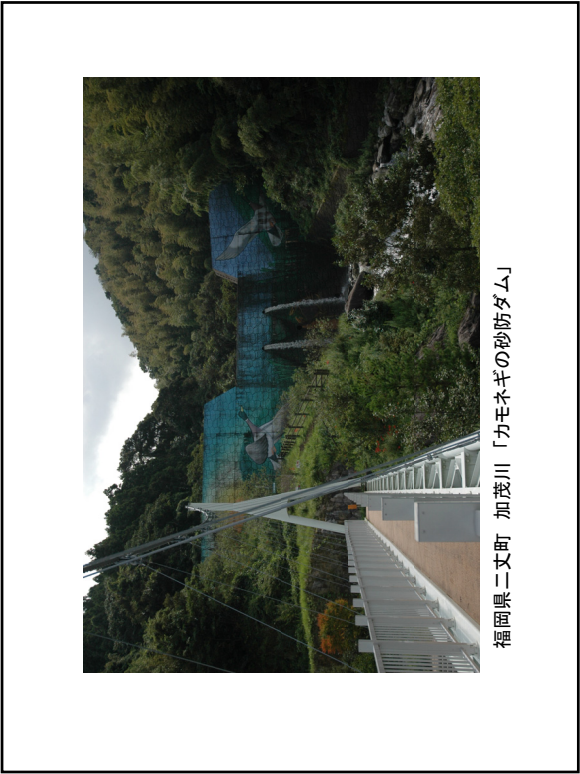
福岡県二丈町「魚も蟹も消えた」

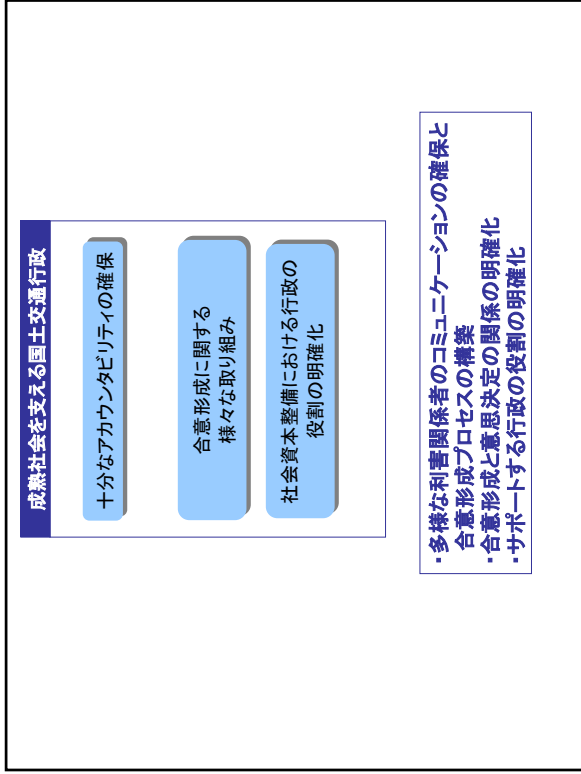
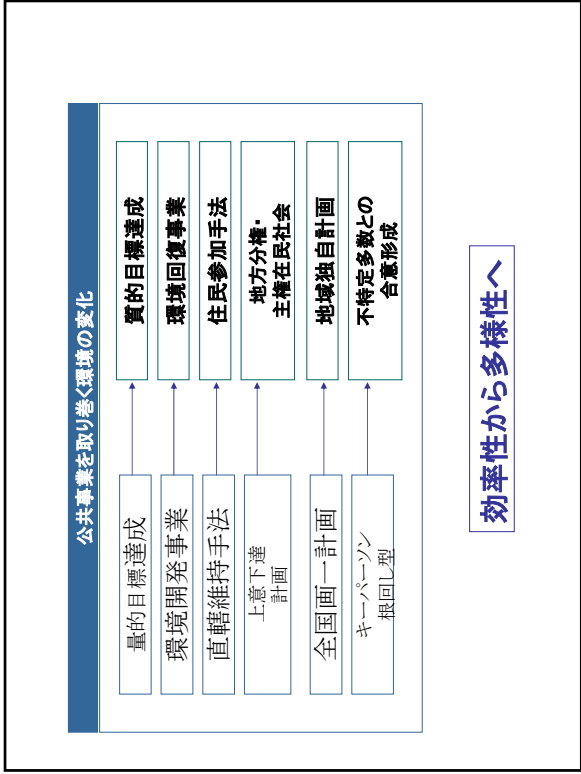
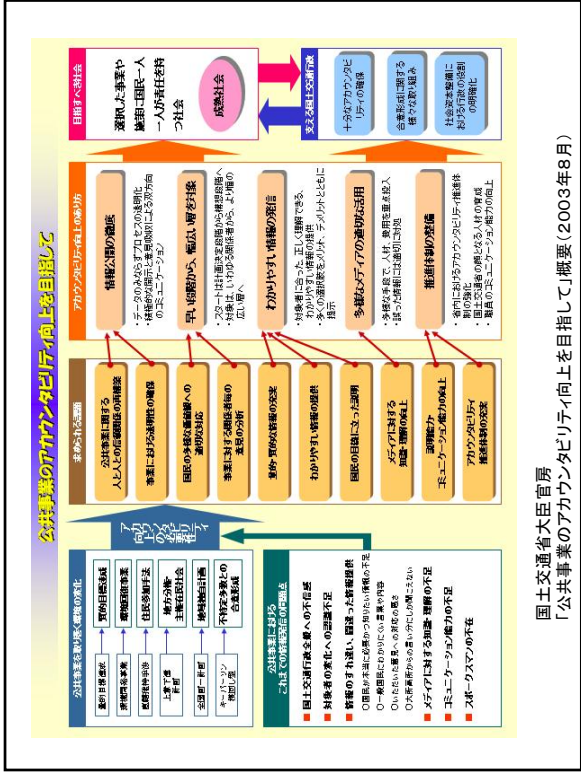


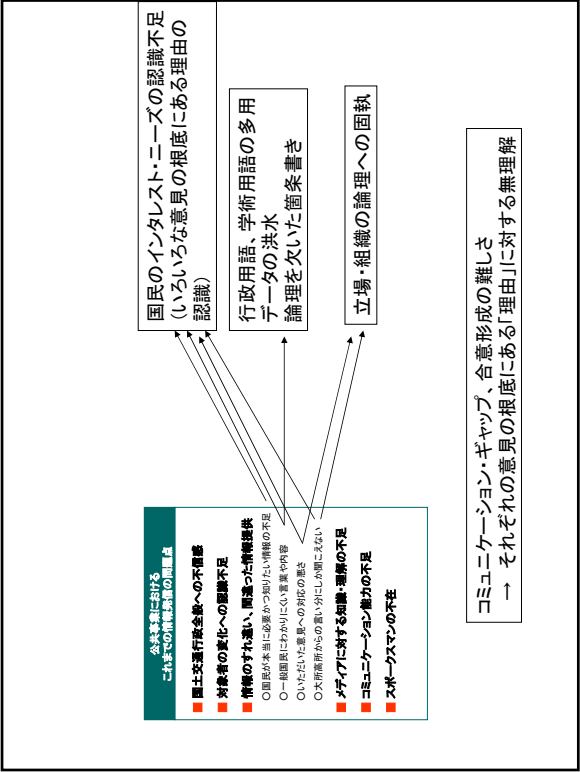
福岡県二丈町浮岳「山が荒れてきている」

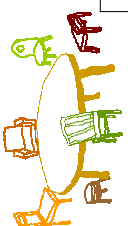


福岡県二丈町「竹藪が山に侵入している」










わたしたちの考える
合意形成とは...



多様な価値観の存在を認めながら、
人々の立場の根底に潜む価値を掘
り起こして、その情報を共有し、お互
いに納得できる解決策を創造してい
くプロセスのことです。

特定非営利活動法人
合意形成マネジメント協会

Consensus Building And
Process Management Association

特定の利害関係者ではなく、当該事業によって影響
を被る可能性をもつ全ての人々(不特定多数の人々)
が適切な手続きに基づく話し合いによって紛争を回避し、
かつ、よりよい成果を得るためのプロセス

3. 木津川上流住民対話集会での
実践的合意形成プロセス構築の試み





木津川上流住民対話集会における合意形成とは何か

- ・近畿地方整備局は、河川整備計画策定での関係住民との合意を目標に掲げているが、ダム問題での住民との合意形成は表明していない。
- ・淀川水系流域委員会は、ダム建設について、関係住民との社会的合意を条件にあげている。
- ・対話集会を主催する木津川上流河川事務所は、ダム問題について、住民との合意形成をはかるのではなく、ダム建設の是非を決するうえで検討すべき項目の提出を求める。
- ・対話集会も目的として、住民として検討項目のリストを参加住民の合意形成の成果として提出する。

河川法

(河川整備計画)

第16条の2 河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画（以下「河川整備計画」という。）を定めておかなければならない。

2 河川整備計画は、河川整備基本方針に即し、政令で定めるところにより、当該河川の総合的な管理が確保できるように定めなければならない。この場合において、河川管理者は、降雨量、地形、地質その他の事情によりしばしば洪水による災害が発生している区域につき、災害の発生を防止し、又は災害を軽減するために必要な措置を講じるように特に配慮しなければならない。

3 河川管理者は、河川整備計画の実を作成しようとする場合において必要があると認めるときは、河川に関し学識経験を有する者の意見を聴かなければならない。

4 河川管理者は、前項に規定する場合において必要があると認めるときは、公聴会の開催等関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じなければならない。

5 河川管理者は、河川整備計画を定めようとするときは、あらかじめ、政令で定めるところにより、関係都道府県知事又は関係市町村長の意見を聴かなければならない。

6 河川管理者は、河川整備計画を定めるときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

7 第3項から前項までの規定は、河川整備計画の変更について準用する。

第1回 対話集会のお知らせ

木津川上流河川事務所が主催する「木津川上流住民対話集会」は、関係住民との合意形成を目的として開催されます。この機会に、関係住民の意見を聴き、河川整備計画の策定に協力していただきます。

日時: 3月20日(祝) 午前10時～午後4時00分
場所: ゆめだーんうえの(第二建設場)

どなたもご自由にご参加下さい
(中絶症のみならん人はご参加下さい)

木津川上流河川事務所 木津川上流住民対話集会 関係(074-241-1111)

木津川上流河川事務所 木津川上流住民対話集会 関係(074-241-1111)

木津川上流第1回住民対話集会
ちらしおよびポスター

第4回
木津川上流住民対話集会プログラム

10.00 対話集会の進め方について

- 10.00 開会挨拶、注意事項など
10.10 対話集会の進め方について
① 最近の経緯などについての報告
② 進め方についての進行役の提案
③ 参加者と進行役による、進め方についての協議

11.00 前回出された疑問に対する説明

13.00 公開討論

- 13.00 上流の町並みのあいさつ
13.10 上流の町並みのあいさつ
① テーマごとに分岐
② 新田のおさらい

- 1) スケッチの進捗
2) 新田のおさらい
③ 新田のおさらい
④ 討論

- 1) 各自意見記入
2) 意見交換・協議
⑤ 意見交換・協議

- 15.20 全体集会
① 各テーブルで出された意見の報告
② 全体の意見交換
③ 連絡事項など

- 16.30 終了

木津川上流
住民対話集会での話し合いルール

◎3つの原則

- ① だれもが自由に平等な発言ができる。
② 創造的な話し合いをする。
③ 皆が合意形成に向けた努力をする。

●7つのルール

- ① 自由に平等な立場で発言しよう。
② 特定個人や団体の批判はしない。
③ 参加者は、立場を超えて議論しよう。
④ 参加者の意見は所属団体の公式見解とみなさない。あくまでも、そのひと個人の意見とみなす。⑤ 分りやすい説明、お互いの心情への理解、基本的なモラルの遵守を心がけよう。
⑥ 客観的な事実の認識と、人の心情の理解とを区別し、また、その両方に配慮しよう。
⑦ その趣意の対話集会でものを必ず行い、合意された事項を確認しよう。
⑧ 多様な意見があることを認めた上で、創造的な話し合いを心がけ、意見の違いを超えて提案の手段を自問するとともに、合意された文書は、多様な意見の集大成として、関係者へ共有する。
(多岐決は行かない。同意併記はできるだけ避ける。)

第1次木津川上流住民対話集会の7つの特色
【対話集会木津川モデル】の提案

1. 集会を進めながら、対話の進行をデザイン

2. 手を上げれば、だれでも参加できるしくみ
(ハードルなし)

3. 全員が責任をもって発言する体制
(すべての公開)

4. 新しい「反映」のかたち
(「反映」＝「提案＋対応・説明」)

5. 提案は提案書で。提案書は「前文＋チャックリスト」で

(提案書は、河川管理者が川上ダムの問題に対して意思決定する際の検討項目を提示するもの。チャックリストには、対応構、説明構もつづけるので、提案項目リスト＋対応・説明のチャックリストとして機能)

6. 対話集会は、住民、河川管理者、進行役による、よりよい提案を創るための協働作業

7. 対話集会の成果は、「提案書」＋「進行役による報告書」による二段構え
(同意できる考えは「提案書」で、対立する考えは「報告書」で、もれなく報告)

木津川上流住民対話集会で
認識した合意形成の課題

■国土交通省大臣官房「概要」による情報の問題認識

- ・情報のすれ違い、間違った情報提供
- ・わかりにくい言葉や内容
- ・大所高所からの説明にしか聞こえない
- ・出された意見に対する対応の遅さ
- ・コミュニケーション能力の不足
- ・メディアに対する認識の問題
- ・スポーツマンの不在

■話し合いのプロセスの問題

- ・議論のすれ違い(議論の目的がない、目的が共有できない)
- ・意見の背景にある理由(インダレスト、ニーズ)への無理解
- ・自分の利害に立っただけの説明
(行政的枠組み、アカデミズムの枠組み、行政との関係の理解)
- ・多様な立場に立つことのできない背景(権限でない、理由の存在)

■問題克服への課題

- ・関係者の認識を統一している構造の自覚とそれを超えるための構造の組み替え
(時間＝既存の部署の強さを壊している構造の自覚とそれを超えるための構造の組み替え)
- (1)話し合いの目的を共有する
- (2)双方の意見の背景にある理由を掘り起こし共有する
- (3)それぞれの利害関係にもとづいて説明をそれぞれにわかるように行う
- (4)権限でない、理由をききとら分析する(利害関係分析)
- (5)問題を克服するための解決案を提案する

★話し合いのための場のデザイン、スケジュール、プログラムの工夫

再生の風景



四十年ぶりの湧水復活
「井玉はなるよなら」
「みんなで根拠を埋めなかつた」
「声の大きじりといふがなかった」

水信仰の存在と
先達の合意
歴史文化と自然
のかかわりの
再生

佐賀県白石町川津縫ノ池

伝統的合意のしくみ



講

「講」池を復活させたもの

佐賀県白石町川津地区の集会

惣

多数決
両論併記
の回避
とことん
話し合い
責任の明確化
(わたくしど公)
議論と合意
の記録



中世農村の名残形システム
入り組んだ水資源の管理システム・紛争解決システム・
システムと管理システム

佐賀県琵琶湖北菅浦



数百年も
つづく合意
のシステム
あいまいさ
が効果的な
分配システム
強い関係者
の利害調整

伝統的水資源配分システム

城原川三千石堰井手掘り

・日本の空間協働行為の文化発信空間
茶の湯、生け花、香道、運動など

「一視同仁」
対等平等
な討議空間
創造的空間
のデザイン

慈照寺東求堂同仁斎

立て花：寄り合いと会所の思想

寄り合い
会
所
協働空間
の創造
創造行為の
空間デザイン

「一視同仁」
対等平等
な討議空間
創造的空間
のデザイン

「一視同仁」
対等平等
な討議空間
創造的空間
のデザイン

感性とは何か、感性工学・感性哲学

- 自己と環境とは空間の履歴で結ばれている。
- 感性とは、自己と他者、自己と環境との関係を捉え、感動と感謝という経験を可能にし、自己と環境とのよりよい関係を創造する能力である。

感性を考え方の基礎にして地域づくりを考えるためのポイント

- ◆ 地域の人々に自己と環境との関わりを再発見してもらう
- ◆ 空間の履歴を自分の履歴とともに掘り起こすプロセスを構築する
- ◆ 感動し、感謝する心を養うための工夫を行う（説教ではだめ）
- ◆ よりよい環境を創造することへの動機づけのためのさまざまな仕掛けをつくる



おわり